

磐城春秋

第九十號

發行所 磐城 市 平 野 町 八 六 三 番 地
電話 五 三 八 二
印刷所 高 木 印刷 所
水 稻 所 版 活 平

【定部十四錢】

常磐斷想

八幡組自由労働者
組合準備會の提唱

磐城民主陣營よ

同志愛を以て團結せよ

夙に縣知事、市町村長の公選、縣市町村議員の改選が叫ばれ縣内に於ても既に飯坂町を初め飯坂町で實施された。當地方もその機運が擡頭してゐる然し未だ實施を見てゐないのは遺憾であるが去る十九日平市第三十六區で區長公選を實施し棄権率僅に四分と云ふ好成绩を見せ區民の熱意の程を示したこれを好機として市内全區長の公選を實施すべきである。民主主義國家日本として區長公選は別に問題とするに足らないが、これでは未だ未實施なのである。先づ足元から片附けて行かなければ民主日本の再建は困難である。三十六區の公選方法を以て速に公選を實施すべきである。これは一に市民各位の眞剣な、そして熱心な要望により決定されるべき問題である。戦時中の指導者としての區長は一應その適格性を検討するべきである。

常磐地帯は世界的な潮流に裊し民主的漸進をつづけてゐる。いいことである。だが反面私利私欲の熾るやうな焦燥感にうたれることがある。イデオロギー的な相違や立場は別として、未だにチツボケな感情の行掛りや些細な過失の行動をとりあげていやくも被擧取階級たる人民大衆の完璧強力なる結合の結集に至つてゐない。中央に於ては吉田反動内閣を契機として確然と保守反動陣營と民主人民戦線勢力とに分立した。私達労働者にとつては、然かも中央において社會黨の對共産黨態度に今尚プロレタリア階級獨裁の擬態形態と獨断し、共産黨當面の民主主義政策の徹底にあることに眼を蔽ふことによる。民主勢力不統一の間隙に保守攻撃が展開されつつあるとき、我等常磐地區こそ中央への警告、啓蒙を兼ねた大同團結即ち共産黨、社會黨、労働組合、農民組合、其他民主主義的認定している各種文化諸團體を中核とする民主主義諸勢力を糾合したる大衆的共同闘争委員會の即

貝殼



胃の腸の問題を解決しなくてはならぬ。胃腸の理想も意識をなせよといふ人間的な赤裸な暴露をしてゐるといふ意味である。

△食糧事情が少くも緩和してくれば食糧の増産は加速度で下落する。またたきへ多少の欠陥があつてもどこかの家庭にストックがある以上隣人愛の強迫でどうにかやつてゆける。田町の火事について「けしからぬ」といふより「自分には食糧事情は安心して可なりと思つた。これは決して皮肉で

勤勞青年文化聯盟

二十六日平市で結成式

勤勞青年文化聯盟結成の機運は漸く熟し十九日午後二時半より平市才植小路石城産業看護婦學校に於て結成準備會を開催した。各地勞組文化普及各地文化團體代表約三十名參集し規約草案審議若干の訂正を加へ可決した。追つて二十六日(日)午後二時より同校階上に於て結成式を開く事になつた。

尚聯盟には左の各部を設け活潑なる運動を展開する予定である。

創作部、藝能部、辯論部、カメラ部、娛樂部、体育部

内郷町の自由クラブ主催で卅日夜淺野記念館で舞踊と音楽の發表會がある。

平市初の區内會長公選

平市第三十六區區内會長改選は一世帯一票で二十日市内最初の公選により實施され棄権率六分と云ふ好成绩で正月町の三輪喜美氏(四二)が當選した。

芽ぐむもの
地方文藝誌批評
最近本紙の文藝欄はさか底調

戰災者給與金問題

戰災者給與金問題の聲と題となつた平市第二回戰災者に對する給與金は去る二月廿六日百二十四名分を取經め市役所より縣の方へ申請済で八月迄には本人に支給される筈である。

近火御見舞御禮

平市田町六八(電五三三) 磐城春秋社 平新聞販賣所

△第一回全磐城個人選手権卓球大會は十九日午前九時より平第三國民校講堂で開催された。参加は男子四十三名、女子十一名で優勝者は次の通りである。

主催
▽男子部 東北配電 石上益美君
▽女子部 東北配電 石山益枝嬢

△市民軟式野球大會第二回戦以下は二十日午前八時から磐城中、磐女兩球場で開催される。

△全磐城籠球大會は二十六日午前八時から平女校庭で舉行される。参加男子六チーム 女子八チームである。

△短縮マラソン大會は六月二日午後一時より平市常陽銀行前を出發點として舉行される申込は當日まで

△全磐城排球大會五日九日午前八時より平女校庭で開催される主將會議は六日

△なほ九月上旬には片濱廻り驛傳競争が行はれる

